
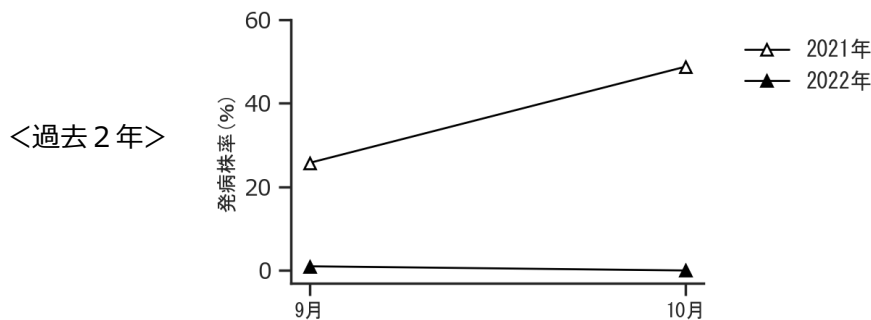
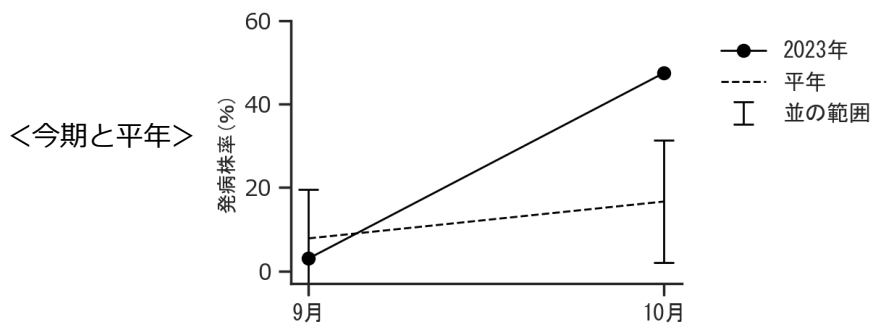


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病		
調査結果	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病株率の推移



- ・発病度11.9（平年4.2）
- ・発生ほ場率100%（平年：53.8%）

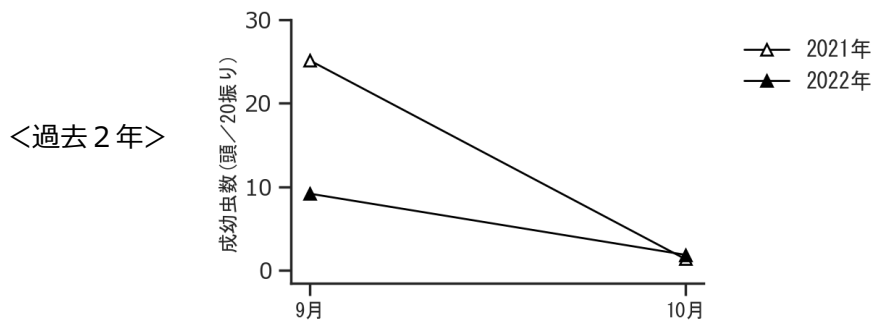
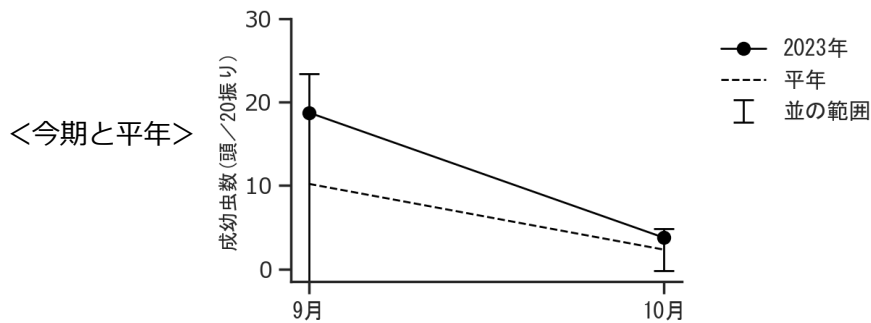
防除のポイント

- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率75.0%（平年：57.6%）

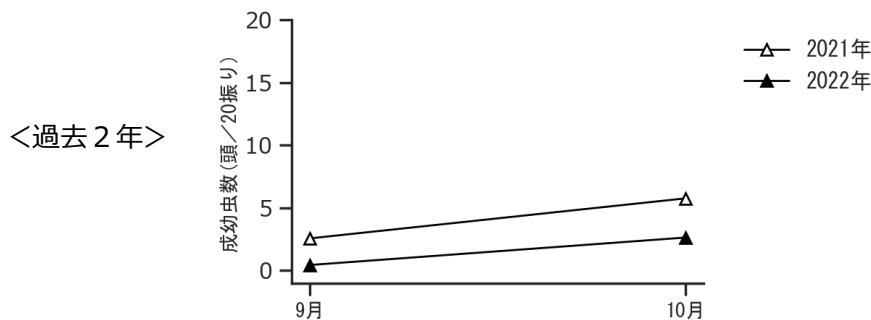
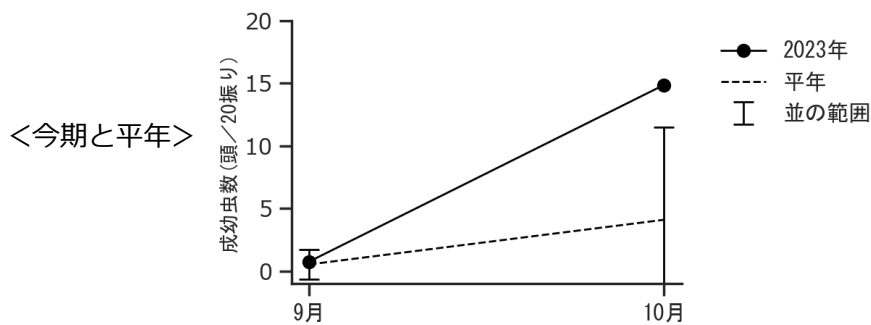
防除のポイント

- ・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。
- ・突発型の害虫であるため、発生予察情報を注意する。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類		 <p>ホソハリカメムシ</p>
調査結果	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

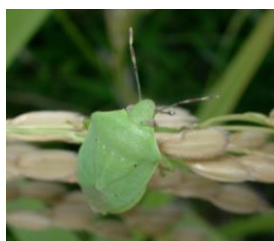
成幼虫数の推移



- ・発生種：ホソハリカメムシ
- ・発生ほ場率75.0%（平年：56.3%）
- ・一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。



ミナミアオカメムシ



アカカメムシ

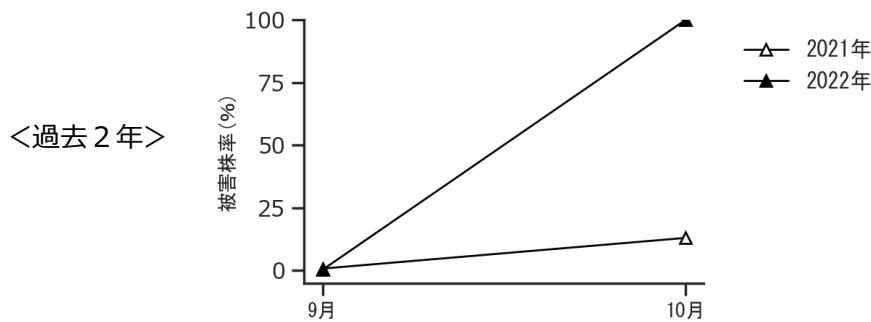
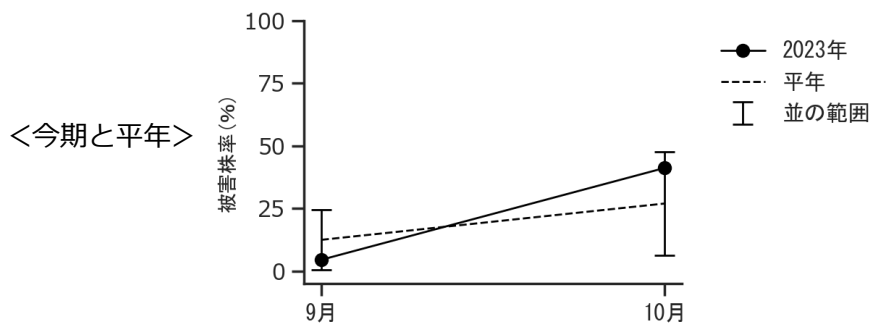


斑点米

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

被害株率の推移



・発生ほ場率100%（平年：56.3%）

防除のポイント

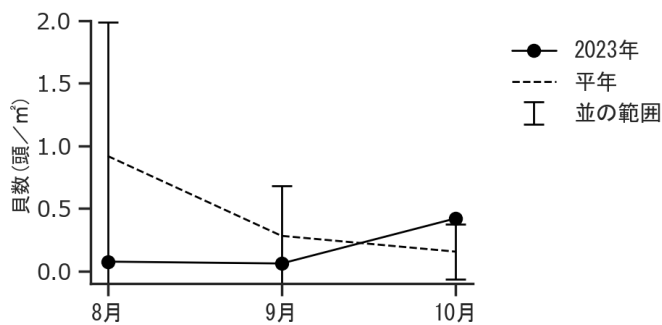
- ・次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ		
調査結果	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報	10月からの増減傾向	—	
	11月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

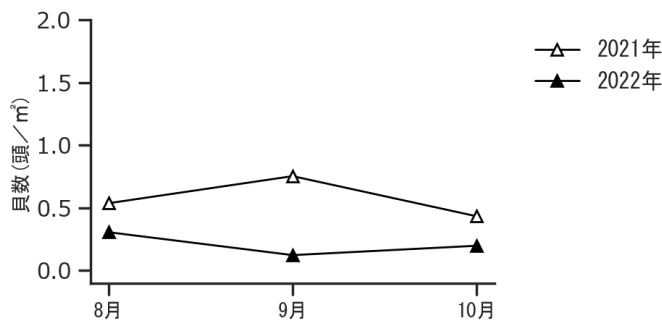
調査結果

貝数の推移

<今期と平年>




<過去2年>



- ・発生ほ場率37.5%（平年：28.8%）
- ・一部ほ場で多発

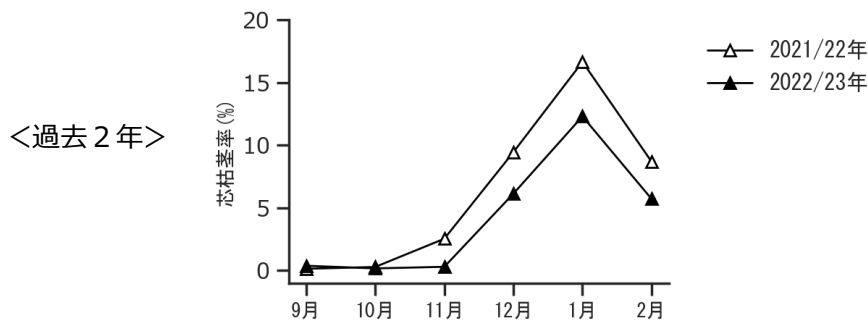
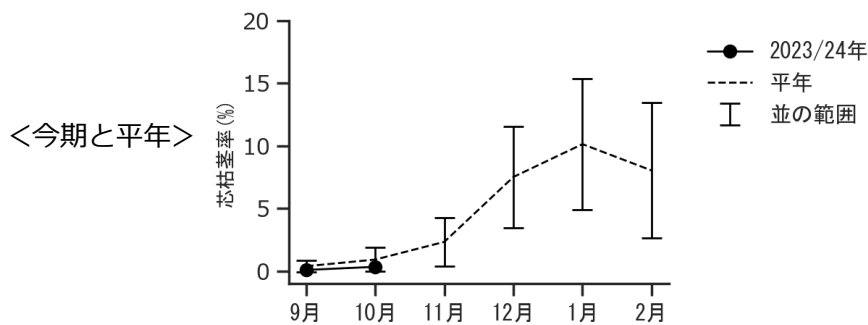
防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


芯枯茎率の推移(夏植え)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ
- ・発生ほ場率41.7% (平年：52.9%)

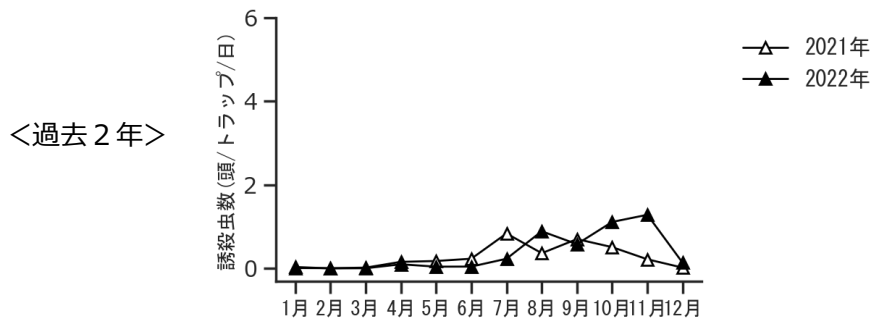
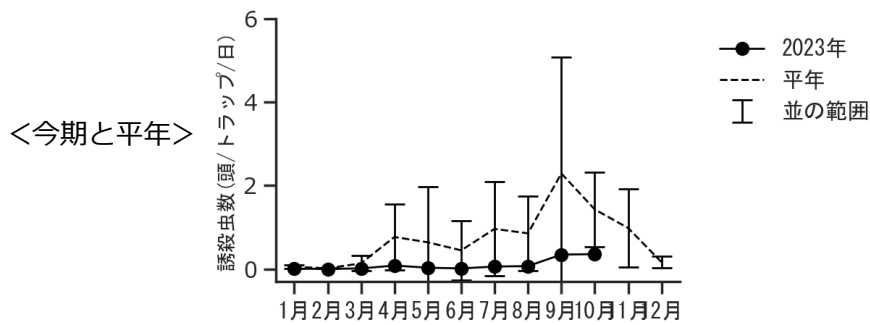
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや少	
予 報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 96.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

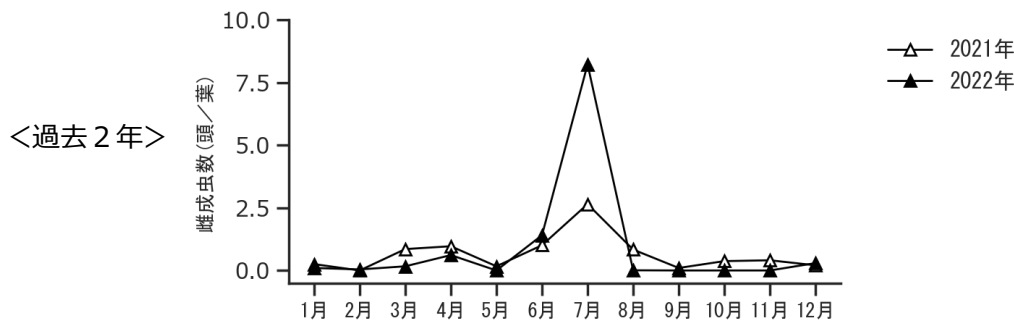
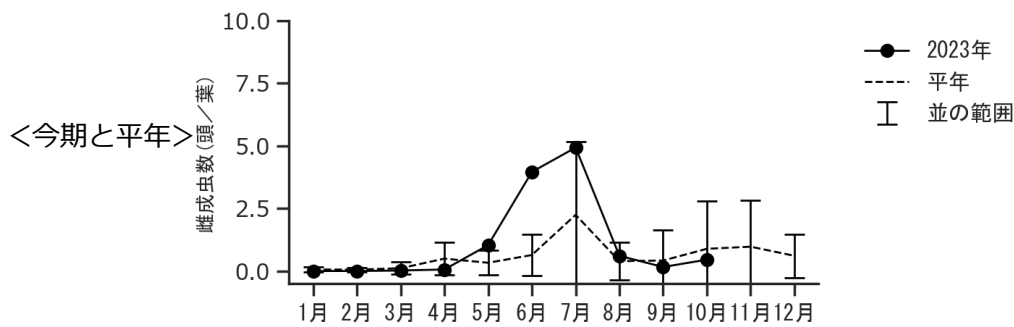


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	→		
	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：28.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

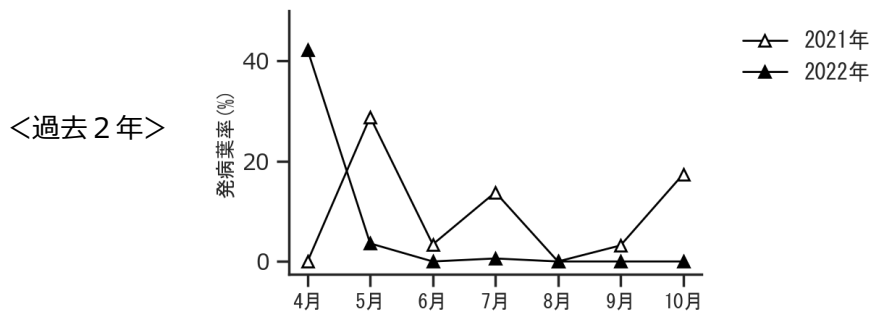
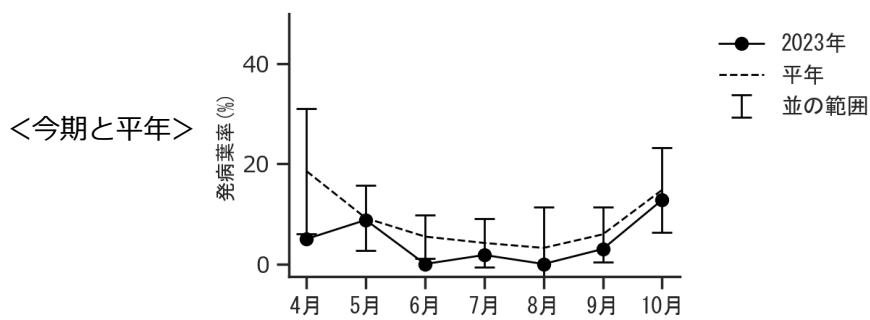


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予 報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：75.5%）

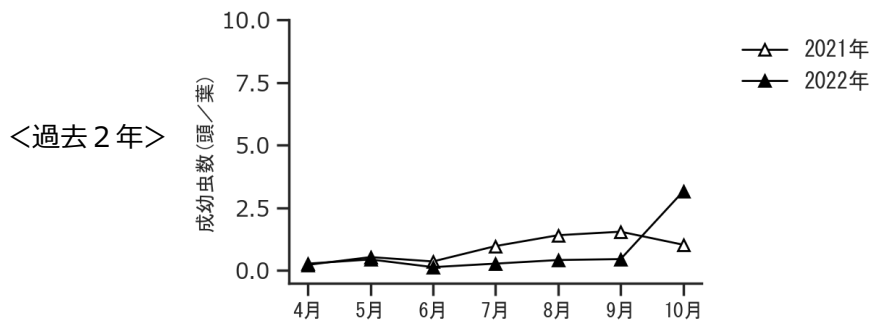
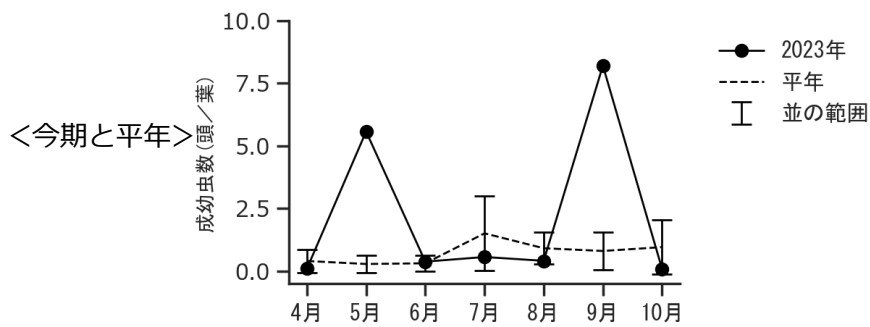
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		 成虫
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 81.1%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

